

地域包括ケア推進会議における主な議論 (地域での対応方針・市レベルの課題)

令和元年度 第1回 松戸市地域ケア会議
令和元年7月30日

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理①

- 平成30年12月～令和元年5月の間、地域包括ケア推進会議は合計19回開催され、医療・介護・福祉・地域関係者等のほか、テーマに応じて、ボランティア・権利擁護機関・病院・子ども担当部署・警察・消防等が参加して、地域課題の解決に向けて議論が行われた。
- 推進会議では、課題解決に向けて、地域での対応方針を決定する。地域で解決できない課題がある場合には、そうした課題を抽出した上で、市レベルの課題につなげる。

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
A. 認知症の理解促進・見守りの推進・早期支援	<p>○認知症など、外からわかりにくい障害の方への手助け、声掛けができる地域の意識醸成。</p> <p>○認知症高齢者やその家族が利用しやすい交流の場、居場所の整備が必要。</p> <p>○認知機能の低下に早期に気づき、医療や支援につなぐ必要がある。</p> <p>○認知症高齢者の理解促進と見守り体制の整備が必要。</p>	<p>○認知機能が低下しておりセルフネグレクトでゴミ屋敷に住む事例。【五香松飛台】</p> <p>○日中独居で、同居している家族から介護についての関心が薄かった事例。【六美六高台】</p> <p>○財布を家族に渡さず、全財産を持ち外出する認知症高齢者の事例。介護者が疲弊しているが、認知症高齢者やその家族の交流の場や居場所が少ない。【馬橋西】</p>	<p>○認知症の早期把握・早期支援のための普及啓発が必要。 【五香松飛台】</p> <p>○自分の事として近所の人や地域に関心を持つ。</p> <p>○近所の気づき、自治会、町会、民生委員、オレンジ協力員、高支連に関わってもらう</p> <p>○地域包括、社会資源マップの周知。【六美六高台】</p> <p>○認知症サポーター養成講座やまちっこプロジェクトを活用し、認知症について全世代に普及啓発を行う。</p> <p>○オレンジ協力員が活動しやすい環境作りと情報の共有、他分野との連携をする。</p> <p>○近隣住民からの情報収集、食事会やサロンの開催。ハイリスク・アプローチ事業における戸別訪問。</p> <p>○認知症カフェ等の交流の場のニーズを把握しそれに応じた企画を行う。【馬橋西】</p>	<p>○商業施設等の企業と連携した認知症に対する理解の促進</p> <p>○居場所づくりとして必要な活動場所の確保、情報提供</p> <p>○認知症の早期把握・早期支援のための普及啓発</p>	<p>五香松飛台 六美六高台 馬橋西</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理②

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
B.消費者被害の防止の推進	消費者被害を防止するための取組が必要	軽度認知症の方がキャッシュカードの詐欺被害に遭った事例。【五香松飛台】	<ul style="list-style-type: none"> ○架空請求についての対処方法の周知。 ○地域包括による消費者被害の普及啓発。【五香松飛台】 	消費者被害を防止するための取組の継続が必要	五香松飛台
C.在宅ケアに関する啓発	在宅ケアの市民への周知、普及の取組みが必要	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で長い間、民生委員やご近所付き合いによって見守られていたが、家賃滞納、ライフラインが止まる、金銭管理ができておらず物忘れ、幻聴があり独語も見られるようになり、受診拒否もある事例。 ○病院から認知症が進行し寝たきりで褥瘡も悪化しているが、介護保険制度の利用を一切拒否し、介護者一人で介護している事例。【矢切】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の事業所や地域包括が住民に対して在宅ケアに関する制度やサービスについて説明会を開催する。 ○地域包括が地域の行事などに参加して在宅ケアに関する周知活動をする。 ○地域のサロンや老人会などで終活かるたを利用して制度などについて知るきっかけづくりをする。 ○交通の便が悪く出かけられない方が多いため、講演会を身近なところで開催する。【矢切】 	幅広い世代に対して高齢者、介護、在宅ケア等に関する普及啓発活動の支援	矢切

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理③

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>D. 医療・介護連携の推進</p>	<p>○不適切な救急要請についての対応を検討する必要がある。</p> <p>(・通院に介護タクシーを利用するか、救急要請するかを判断を救急隊員に仰ぐ人がいる。</p> <p>・すぐに介護タクシーが捕まらない、民間救急は費用がかかるなどの理由から救急搬送を要請する人がいる。</p> <p>・頻繁に救急要請したり、要請後に搬送拒否する人がいる。)</p> <p>○救急要請時、緊急連絡先や既往歴、薬等の情報把握が難しい。</p> <p>○救急要請時、入室困難な構造の住宅がある。</p>	<p>○気持ち的な問題もあり、体調不良で救急要請。病院に着くと何事も無く、そのまま帰宅する事を繰り返す事例。</p> <p>○独居で体調不良となり親族が心配して救急要請するも、本人は救急搬送拒否。アウトリーチを利用し、訪問診療に繋げた事例。</p> <p>○マンション独自の取り組みで、ガラスを割って家に入った場合、管理組合で弁償するシステムがある。安否確認ができないケースで実際に利用された。</p> <p>【新松戸】</p>	<p>○救急アプリや#7119活用などの相談先を周知する。</p> <p>○実際の事例について検討会を実施する。</p> <p>○民間救急や介護タクシーとの連携を図る。</p> <p>○ケアマネやサービスに関わっている利用者から話を聞く。</p> <p>○普段から医師との情報共有ができるように声がけしていく。</p> <p>○民間救急や介護タクシーとの連携を図る機会を持つ。</p> <p>○介護タクシーと普通のタクシーの相違点や料金について、普及教室を開催する。</p> <p>○服薬調整、訪問薬剤師等の活用を促す。</p> <p>○アウトリーチの活用を継続。</p> <p>○松戸市救急時情報用紙の情報共有。</p> <p>○ケース会議の時を利用して本人の意思や家族の事を確認しておく。</p> <p>○住民・ケアマネにアウトリーチについて周知し、包括へ連絡が入る体制を作る。</p> <p>○マンションでは緊急時の入室、対応方法について取り決めを行う。【新松戸】</p>	<p>○救急搬送に関して関係機関との連携の推進や仕組みづくりが必要。</p> <p>○情報共有シートの周知や改定</p> <p>○救急マニュアルの整備</p> <p>○介護タクシーについての積極的な情報提供</p> <p>○消防と連携し、頻回に救急要請する高齢者の情報を包括等と情報共有する体制の構築</p> <p>○医師会と連携して、救急搬送時に必要な情報を記載できるシートの見直しと周知を図る</p>	<p>新松戸</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理④

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
E. 買物等の生活支援・外出支援の促進	<p>○車の運転が危険な高齢者に対して免許返納を促すきっかけが必要。</p> <p>○買物支援ボランティアの取り組みを継続させる仕組みづくりが必要。</p> <p>○立地条件により、買い物ができる場所がなく、生活に支障が出る。</p> <p>○エレベーターがない、手すりが設置できない等、構造上の問題から、外出困難など生活への支障が生じている。</p>	<p>○自分で買い物に行けないことが閉じこもりに繋がり、廃用症候群や認知症が進行している事例。【明2西】</p> <p>○認知機能が低下しているがゴミが積まれた車で運転を続けている事例。【明2東】</p>	<p>○毎月1回買物支援ボランティアの定期的開催をしてノウハウを蓄えて拡大開催を目指す。【明第2西】</p> <p>○移動スーパーを誘致する。</p> <p>○介護事業者が有する車両を活用する買い物支援を推進する。</p> <p>○住みづらさが居住価値に影響を及ぼす点について、マンションの管理組合に適切な情報を提供し働きかけを行う。【本庁】</p> <p>○運転技術や身体機能の低下を本人が認識できるようなイベントを開催する。【明2東】</p>	<p>○高齢者に対する交通安全についての普及啓発が必要</p> <p>○移動スーパー等買い物が困難な高齢者に向けた支援について関係機関に働きかける。</p> <p>○移動困難な高齢者の外出支援の取り組みの支援が必要</p>	<p>明第2西 明第2東 本庁</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑤

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
F. 見守り・安否確認	<p>○集合住宅の規模が小さいことによる住民活動のマンネリ化と活動のしづらさ。</p> <p>○住民同士のつながりが希薄で世代間の交流がないため、多世代への理解が得られない。</p> <p>○高齢者をインフォーマルな面から支援する人が高齢化している。</p> <p>○見守り支援の継続と充実。</p> <p>○孤立しそうな方、孤立している方を地域で見つけられるネットワーク体制の充実。</p>	<p>○癌末期と知的障害の高齢者世帯が自宅での生活の継続を希望しているが、土日のサービスが入っておらず、地域の見守りの目が必要な事例。【常盤平団地】</p> <p>○親族や地域とのかかわりがなく、ゴミ屋敷でセルフネグレクトの事例。【五香松飛台】</p> <p>○ケアマネやヘルパーとの関わりはあるが地域から孤立していた事例。【六実六高台】</p>	<p>○複数の集合住宅や近隣の町会が連合体となり一緒に活動に取り組む。</p> <p>○住民の関心事をリサーチ。</p> <p>○防災や掃除等、全世代に関わることを一緒に取り組む機会を作る。</p> <p>○他圏域の好事例を参考に取り組む。【本庁】</p> <p>○地域包括が民児協やケアマネ、高齢者支援連絡会に対し、見守りあんしん電話の周知を行う。【東部】</p> <p>○自治会の協力者を増やす工夫を行っていく。</p> <p>○元々の住民の子どもの世代に地域活動の声かけを行う。</p> <p>○9.3%いる外国籍の人のコミュニティ作り自治会も協働していく。</p> <p>○団地新聞や自治会掲示板を活用し、役割を周知していく。【常盤平団地】</p> <p>○見守りパトウォークの継続。</p> <p>○徘徊者への対応連携システムの構築。【五香松飛台】</p> <p>○自分のこととして近所や地域に関心を持てるような周知活動、関係機関との連携。【六実六高台】</p>	<p>○地域につながりを持たない高齢者を把握し、必要時に支援機関につなぐ仕組みづくり</p> <p>○見守り支援を行うボランティアの交流会や情報共有の機会の設定</p>	<p>本庁 東部 常盤平 団地 五香松 飛台 六実六 高台</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑥

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
F. 見守り・安否確認	<p>○地域に繋がりを持たない世帯を把握し、必要な支援につなげる仕組みが必要。</p> <p>○支援が必要な人に対し早期発見、早期介入できるよう地域住民同士が見守り、見守られる地域を目指す。</p>	<p>○アルコール依存により適切な判断ができずに経済破綻し、医療も受けずに衰弱している事例。</p> <p>○脳梗塞・脳出血で入退院を繰り返す。近所付き合いがなく、他者との交流を好まない。デイサービスで転倒入院後本人の強い意志で在宅復帰した事例。</p> <p>○集合住宅に独居、近所づきあい、身寄り無し。1年間入退院を繰り返す。自宅内はゴミがあふれ、経済的に破綻していた事例。</p> <p>○奥まった住宅環境でほとんど外出せず、困ったことがあってもSOSが出せない独居高齢者の事例。【小金原】</p> <p>○ゴミ屋敷で喫煙をして火災が心配される事例。【馬橋西】</p>	<p>○地域とのつながりが薄い人に対して、フォーマルサービスと地域住民による見守りによって在宅生活を支援する。</p> <p>○「見守りあいマップ」の活用を含め、住民、専門職が連携して見守り活動を検討、実施する。</p> <p>○小さなコミュニティの中で活動を推進し、地域力を高める。【小金原】</p> <p>○町会単位での話し合いを行う。</p> <p>○食事会やサロンの開催による住民同士の関係づくり。</p> <p>○ワンコインボランティアやデイサービス、自費サービスの活用の推進。</p> <p>○ゴミ出しが出来ないケースへの近隣住民での支援を検討。</p> <p>○緊急通報装置の普及啓発。利用者から利点を聞き取り情報共有する。</p> <p>○郵便局や薬局、商店等へ地域包括の案内を設置し、連携支援体制を構築する。【馬橋西】</p>	<p>○各地区で行われている見守りに関する取組を市内全体に広める支援</p> <p>○ゴミ屋敷のゴミの撤去についての方策の検討</p>	<p>小金原 馬橋西</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑦

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
G.障害分野との連携	<p>○精神疾患についての理解を深める必要がある。</p> <p>○高次脳機能障害の人が地域で暮らしていけるよう、地域住民の理解を深める。</p>	<p>○90代の親を介護する精神障害を抱える子。情緒不安定で、サービスが必要と考えられるが拒否する事例。</p> <p>○知的障害と精神障害のある方。本人は自宅で暮らしを希望するが地域とのつながりがなく今後の見守り体制が懸念される事例。【矢切】</p> <p>○50代独居で高次脳機能障害がある方が精神的に不安定でケアマネに頻回に連絡があるがコミュニケーションが取りづらい上、病識が乏しく支援が難しい事例。【小金】</p>	<p>○家族支援として関係機関へつなぐ。</p> <p>○地域住民へ精神障害の理解を深める機会をつくる。</p> <p>○あいさつから始め、困っていたら声をかける。【矢切】</p> <p>○地域においても高次脳機能障害の理解を進めてゆく方法について議論を進める。【小金】</p>	<p>○精神障害等の理解が促進されるよう市民への啓発活動の多世代に向けた実施</p> <p>○障害のある方の制度やサービスについての積極的な情報提供</p>	矢切 小金
H.多分野にまたがる支援の推進	<p>○複合的課題を抱える世帯に変化が生じたときに、支援者がすぐに対応できる連絡体制の検討が必要。</p> <p>○地域に多世代間の交流の場が必要。</p>	<p>○認知症の高齢者の施設入所について障害のある子同士の意向が相違している事例。</p> <p>○介護保険未申請でサービス拒否の本人と介護力の乏しい子の二人暮らし。自宅で過ごしたい本人の思いを尊重して関係機関が支援を行い、子が自発的に介護に参加するようになった事例。【明第1】</p>	<p>○世代に関係なく、誰でも来ていいカフェの開催。</p> <p>○施設見学ツアーの開催。</p> <p>○各組織の強みを持ち寄る。</p> <p>○引きこもりが悪いと考える風潮を問題と捉えていく。</p> <p>○支援が必要な人だけでなく、その家族にも目を向け、何か起きたときに相談できる関係性を構築する。【明第1】</p> <p>○多世代交流型のサロンを立ち上げる。【五香松飛台】</p>	<p>○重症化する前に対応できる連携体制やシステムの構築</p> <p>○カフェや交流会のノウハウを市内で共有していく</p> <p>○カフェ等の活動場所の提供</p> <p>○福祉まるごと相談窓口の周知の継続</p> <p>○閉庁日や夜間の相談窓口に関する情報提供。</p>	明第1 五香松飛台

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑧

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
I. セルフ ケアの 推進	フレイル・栄養・口腔の介護予防・重症化予防の取り組みが必要。	仕事をリタイア後、人との交流がなく、意欲、体重が激減し物忘れが進み、よく転倒するようになった事例。支援開始当初はリハビリが必要だと思われていたが、その前に食生活・栄養改善で体力をつける必要があった。【明第2西】	○地域住民へのフレイルの講演会を開催する。 ○地域ケア会議に新たに管理栄養士に参加してもらう。 ○ケアマネ向けにフレイル・栄養・口腔についての研修会を開催する。	住民へ介護予防や生活習慣病等の普及啓発が必要	明第2西
J. 国際化 への対応	高齢者本人のみならず同居の家族の支援も必要であり、地域で暮らしづらくなっている人を支えていく仕組みが必要。	長い海外生活の後、帰国して寝たきり状態の高齢独居の方の事例。介護する家族が風習の違いからヘルパーと共感できず、良好な関係を築けなかった。【小金原】	○地域住民による見守りが重要となるため、「見守りあいマップ」の活用を含め、住民、専門職が連携して見守り活動を検討、実施する。 ○言葉や習慣の違いについては、必要に応じて市の通訳制度を利用、図柄を使用した説明など根気よく行い相互理解を深める。	見守りに関する各地区的な好事例を市全体に広める	小金原

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑨

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
K.災害発生時の要介護者等への対応	<p>○若い世代の防災の担い手がいない。</p> <p>○災害が日中に発生した場合、若い世代は働きに出ており、地域には少ない可能性がある。</p> <p>○災害時に支援が必要な世帯が把握されていない。</p> <p>○ハザードマップ上、地震災害時の液状化の可能性が非常に高く、中小河川の洪水による浸水の危険も非常に高い地域である。</p> <p>○災害発生後支援が来るまでの72時間を地域で対応できる体制を作る必要がある。</p> <p>○災害時の要支援者への支援の確保。</p> <p>○災害発生時に自助でのりきれない世帯が多くある。</p>	<p>○高齢者のみの世帯で、高齢の本人が認知症かつ医療依存度の高い配偶者を介護。介護の代替者がいない事例。</p> <p>○知的障害の子が高齢認知症の親を介護している事例。</p> <p>○夫婦ともに軽度認知症がある世帯の事例。</p> <p>【小金原】</p>	<p>○災害時要配慮者の避難方法や避難所運営を学習し準備しておく必要がある。</p> <p>○地域住民や福祉職として働いている人たちに自分が住んでいる地域の災害の歴史や地理的特徴を知ってもらう。</p> <p>○住民、施設と一緒に参加できる防災イベントを開催して、防災意識を高めてもらう。</p> <p>【明第2西】</p> <p>○防災対策についてさらに議論を深めるため、次回の推進会議に、学校関係者、危機管理課にも参加してもらう。</p> <p>○地域参加のきっかけとして、子育て世代へ向けたイベントを開催する。</p> <p>○防災対策について、地域特性を踏まえた議論を行う必要がある。</p> <p>○隣近所で声を掛け合う関係を作り、自治会でも取り組んでいく。【小金】</p> <p>○近所の人達による共助が災害時に発揮できるよう見守り活動や地域活動で日ごろの関係をつくっておく。</p> <p>○日常で声かけ、顔の見える関係を作り、家庭状況を知っておく。【小金原】</p>	<p>○避難行動要支援者名簿がすべての対象者を網羅できる仕組みの検討。</p> <p>○若い世代へ向けた、防災やイベント情報の周知</p> <p>○各地域における福祉避難所での避難訓練実施に向けた支援</p> <p>○若い世代へ向けた、防災やイベント情報の周知</p> <p>○地域の防災資源の詳細版作成に対する支援</p>	<p>明第2 西 小金 小金原</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑩

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>L.高齢者とペット</p>	<p>○高齢者とペットの問題に対する普及啓発が必要。</p> <p>○ペットを飼えなくなった時の引き取り先の確保などペットに関する支援のネットワークの構築が必要。</p> <p>○ペットロスによる孤独に対する支援が必要。</p> <p>○災害時のペットに対する対応について検討しておく必要がある。</p>	<p>飼い犬のことが気になって入院できない重度の疾患を持つ高齢者の事例。【常盤平】</p>	<p>○ペットに関する様々な問題（飼い主が買うことが難しくなることや、野良猫への対応）について地域で普及啓発イベントを行う。</p> <p>○ペットを飼っている高齢者を把握する。</p> <p>○飼い主がいざとなったときのことを事前に話し合っておく。</p> <p>○ペットの引き取り手やペット保険などについての情報提供を行う。</p> <p>○いざという時に助け合えるペット仲間づくり（散歩が難しい飼い主の代わりに散歩を行うなど）。</p> <p>○犬の予防接種や猫の避妊・去勢手術を行っておく。</p> <p>○ペットロス高齢者の話し相手になる。</p> <p>○避難訓練をペット同伴で行う。</p> <p>○ペット同伴の避難者について把握し、話し合いをする。</p> <p>○ペットの食糧備蓄。【常盤平】</p>	<p>○高齢者のペット飼育についての普及啓発</p> <p>○ペット支援の仕組みづくり（ボランティア・仲間づくりの支援）</p> <p>○災害時のペット同伴避難についての体制整備</p>	<p>常盤平</p>

別添

各地域包括ケア推進会議における 参加者・議題・議論

1. 明第1地区推進会議（令和元年5月28日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月28日 (火) 14:00~ 16:00	町会	1	医師	5	ケアマネ	3	1、地域包括ケア推進会議とは（3層構造の会議） 2、「地域共生社会に向けた取り組みの推進」 (1) 地域共生社会について (2) 福祉まるごと相談窓口の周知 (3) 明第1地区の現状 (4) グループワーク「障害者や高齢者といった枠組みにとらわれず、引きこもり等支援の必要な人が相談窓口につながるにはどうしたらよいか」 (5) 発表 (6) 議論のまとめ 3、平成30年度松戸市地域ケア会議の報告
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	3	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	2	
	高支連		作業療法士	1	地域包括	5	
	医学生	1	理学療法士	1	市役所	2	
			警察		松戸市福祉まるごと	1	
			消防		ほっとねっと	1	
					COCO	1、栄養士 1	
				合計	33人		

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
地域とのつながりが希薄化しているなか、「8050」「7040」問題等、複合的課題を抱える世帯が増加。引きこもりの長期化、高齢化、生活困窮等で孤立化しがちである。世帯に変更が生じたときに支援者がすぐに対応できる連絡体制を整えておく等全世代で考え支えていく必要がある。	本人は認知症を患っており、認知機能が低下してきているが、施設入所について子同士の意向が相違している事例。 介護保険未申請でサービス拒否のみられる本人と介護力の乏しい子の二人暮らし。自宅で過ごしたいという本人の思いを尊重して関係機関が支援を行った結果、子が自発的に介護に参加するようになった事例。	○ ○	○世代等にかかわらず誰でも来ていいカフェの開催。 ○施設見学ツアーの開催。 ○みんなの強みを持ち寄ること で何か出来るのではないかと。 ○引きこもりが悪いと考える風潮を問題と捉えていく。 ○支援が必要な人だけでなく、その家族にも目を向けていく。 何か起きたときに相談できる関係性を作っておく。	○どこに相談窓口があるか分かりやすい情報を事業者や市民へ提供する。 ○世帯全体の悩みを相談できる場所。 ○重症化する前に救い出せる連携体制やシステム。 ○カフェや交流会のノウハウを市で伝授していく。 ○活動場所の提供。 ○閉庁日や夜間の相談窓口に関する情報提供。

2. 明第2西地区推進会議（平成31年1月9日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
1月 9日 (水) 19:00~ 20:30	町会	9	医師	2	ケアマネ	1	1.災害時要配慮者支援と地域連携 所 正明氏（小金原地区会 防災部長）による講演 2.松戸市福祉避難所開設マニュアル 松戸市役所危機管理課による講演 3.災害時要配慮者支援における当地区の課題 グループワーク
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	7	
	市社協		薬剤師	2	通所介護		
	民生委員	2	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム	2	
	高支連	1	医療相談員		地域包括	7	
			理学療法士	1	市役所	4	
			警察		病院防災責任者	1	
		消防		社会福祉士	1		
				合計	42人		

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
明第2西地区は、ハザードマップ上、①地震災害時の液状化の可能性が非常に高く、②中小河川の洪水による浸水の危険も非常に高い地域である。		○	○災害時要配慮者の避難方法や避難所運営について学習し準備しておく必要がある。 ○地域住民や福祉職として働いている人たちに自分が住んでいる地域の災害の歴史や地理的特徴を知ってもらう。	○避難行動要支援者名簿がすべての対象者を網羅できる仕組みを考えてもらう。（現在の手上げ方式では不十分） ○各地域が福祉避難所での避難訓練を実施しやすいように後押しする施策。

3. 明第2西地区推進会議（令和元年5月8日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
1月 9日 (水) 19:00~ 20:30	町会		医師	1	ケアマネ	4	1. 明第2西地区の地域課題への取り組み状況報告 ①地域の見守り強化 ②家事・生活支援（地域の助け合い） ③集いの場の拡充 ④家族介護者の負担軽減支援 ⑤介護予防の推進 ⑥認知症予防・住民理解と支援啓発 ⑦高齢者いきいき安心センターの知名度アップ ⑧精神障害・アルコール依存症を原因とする支援困難ケースが多い ⑨防災への取り組み 2. 今年度（令和元年度）に取り組む重点課題
	地区社協	1	歯科医師	2	介護事業者	7	
	市社協		薬剤師	1	通所介護	2	
	民生委員	2	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連	1	医療相談員		地域包括	5	
			理学療法士		市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	26人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	介護予防・重症化予防のための3大テーマ（フレイル・栄養・口腔）	仕事をリタイア後人との交流がなく、意欲、体重が激減し物忘れが進み、よく転倒するようになった事例。支援開始当初はリハビリが必要だと思われていたが、その前に食生活・栄養改善で体力をつける必要があった。	○	○地域住民へのフレイルの講演会を開催する。 ○地域ケア会議に新たに管理栄養士に参加してもらう。 ○ケアマネ向けにフレイル・栄養・口腔についての研修会を開催する。	住民へフレイルについての普及啓発が必要
イ	買物支援ボランティアの定期開催（取り組みを継続させる仕組みづくり）		○	○毎月1回買物支援ボランティアの定期的開催をしてノウハウを蓄えて拡大開催を目指す。	
ウ	地域住民・福祉職が共に行う防災への取り組みが必要		○	○住民、施設と一緒に参加できる防災イベントを開催して、防災意識を高めてもらう。	

4. 明第2東地区推進会議（平成31年3月20日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
3月20日 (水) 17:45~ 19:15	町会	8	医師	1	ケアマネ	5	1.車の運転が危険になりつつある高齢者に対して免許返納を促すきっかけがないか 2.免許返納した場合の生活に支障が生じる方に対してどのような支援が必要か 3.地域資源マップについて
	地区社協		歯科医師	2	介護事業者	5	
	市社協		薬剤師	3	通所介護		
	民生委員	2	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	5	
			理学療法士		市役所	2	
			警察				
			消防				
					合計	33人	

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
車の運転が危険になりつつある高齢者に対して免許返納を促すきっかけがないか。	認知機能が低下しているがゴミが積まれた車で運転を続けている事例。	○	運転技術や身体機能の低下を本人が認識できるようなイベントを開催する。	高齢者に対する交通安全についての普及啓発が必要。

5. 本庁地区推進会議（令和元年5月22日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
5月22日 (水) 14:00～ 16:00	町会	1	医師	1	ケアマネ	3	1.高齢化の進行しているマンションの方よりマンションの紹介、取り組んでいる事例の紹介 2.他地域の好事例の発表 3.グループワーク 高齢化するマンションの課題を共有し、「見守り」という観点から課題に対してどんな取り組みができるか考える 4.松戸市ケア会議報告
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師	1	福祉用具	1	
	民生委員	5	作業療法士	2	訪問看護	1	
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	1	
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
	まつどNPO法人	1	理学療法士		市役所	1	
			警察		地域住民 オブザーバー	8 1	
			消防		合計	31人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	集合住宅の規模が小さいことによる住民活動のマンネリ化と活動のしづらさ。		○	複数の集合住宅や近隣の町会が連合体となり絶対数を増やして、一緒に活動に取り組む。	
イ	住民同士のつながりが希薄で世代間の交流がないため、他世代への理解が得られない。		○	○住民が何に関心があるのかをアンケート等を実施してリサーチする。 ○防災や掃除等、全世代に関わることを一緒に取り組む機会を作る。 ○他圏域の好事例（ゴミ出し支援、声かけ支援等）を参考に取り組む。	

5. 本庁地区推進会議（令和元年5月22日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	立地条件によっては、買い物が できる場所がなく、生活に支障 が出てくる。		○	○移動スーパーを誘致する。 ○介護事業者が有する車両を活 用する買い物支援を推進する。	
エ	エレベーターがない、手すりが 設置できない等、構造上の問題 から、外出困難など生活への支 障が生じている。		○	住みづらさが居住価値に影響を 及ぼす点において、マンション 管理組合に対して適切な情報を 提供し働きかけを行う。	

6. 矢切地区推進会議（平成30年12月20日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
12月20日 (木) 10:30~ 12:00	町会	1	医師		ケアマネ	2	1.松戸市ケア会議報告 2.在宅医療・介護連携支援センターについて 3.地域密着型サービス定期巡回の説明 4.終活かるた 5.グループワーク 「病気や障害を持っても安心して暮らしていけるサービスを知ってもらうためには」
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者	2	
	市社協	1	薬剤師	1	福祉用具	1	
	民生委員	5	看護師		定期巡回	1	
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
			作業療法士	1	市役所	3	
			警察		在宅医療・介護連携センター	3	
			消防				
					合計	26	

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
在宅ケアの市民への周知、普及の取り組み	<p>○地域で長い間、民生委員やご近所付き合いによって見守られていたが、家賃滞納、ライフラインが止まる、金銭管理ができておらず物忘れ、幻聴があり独語も見られるようになり、受診拒否もある事例。</p> <p>○認知症が進行し寝たきりで褥瘡も悪化しているが、介護保険制度の利用を一切拒否し、介護者一人で介護している事例。</p>	○	<p>○地域の事業所や地域包括が住民に対して在宅ケアに関する制度やサービスについて説明会を開催する。</p> <p>○地域包括が地域の行事などに参加して在宅ケアに関する周知活動をする。</p> <p>○地域のサロンや老人会などで終活かるたを利用して制度などについて知るきっかけ作りをする。</p> <p>○講演会を身近なところで開催する。(交通の便が悪く出かけられない方が多い。)</p>	<p>○現在の介護保険の制度について、協議会などで市民向け説明会を開催して欲しい。(若い世代も含めて)</p> <p>○市も関わったの積極的な町会加入についての取り組み(町会・自治会への加入促進)</p>

7. 矢切地区推進会議（令和元年5月23日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月23日 (木) 15:00~ 16:30	町会	1	医師		ケアマネ	1	1、H30年度第二回松戸市地域ケア会議報告 2、精神障害についての理解を深める (講師 ほっとねっと・在宅医療介護連携支援センター 桑田良子氏) 3、生活支援体制整備事業について 4、その他(H30年度 相談業務のまとめ)
	地区社協		歯科医師		介護事業者	3	
	市社協	1	薬剤師		通所介護	1	
	民生委員	6	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
	矢切支所	1	作業療法士	1	市役所	1	
			警察		在宅介護連携センター 1 まつど市民サポート 1 看護学部教授 1		
			消防				
					合計	24人	

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
精神障害への理解を深める	○90代の親を介護する精神障害を抱える子の事例。情緒不安定になることがある。子にもサービスが必要と考えられるがサービスを拒否する。 ○知的障害と精神障害を抱えていて、65歳になれば介護保険サービスへ変更になる可能性がある事例。本人は自宅で暮らし続けることを希望しているが住民との交流や地域とのつながりが殆どなく、今後の見守り体制が懸念される。	○	○家族支援として関係機関へつなぐ。 ○地域住民へ精神障害の理解を深める機会をつくる。 ○あいさつから始め、困っていたら声をかける。	○精神障害等の理解が促進されるよう市民への啓発活動の多世代に向けた実施。 ○障害のある方の制度やサービスについての積極的な情報提供。

8.東部地区推進会議（平成31年3月22日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
3月22日 (金) 13:30~ 14:30	町会		医師		ケアマネ		1、松戸市地域ケア会議の報告 2、東部地区個別ケア会議の報告 3、見守り体制の強化について ～見守りあんしん電話の普及にむけて～
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師		通所介護		
	民生委員		看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連	7	医療相談員		地域包括	2	
			理学療法士		市役所	1	
			警察				
		消防					
				合計	10人		

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
見守り体制の強化が必要である。		○	○地域包括が民児協やケアマネに対し、見守りあんしん電話の理解が深まるよう紹介の場を設ける。 ○高齢者支援連絡会の学習会で見守りあんしん電話の取り組みを紹介し、普及に努める。	独居高齢者や高齢者世帯の情報を地域に出してほしい。

9.常盤平地区推進会議（令和元年5月16日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
5月16日 (木) 13:30~ 15:30	町会	15	医師	2	ケアマネ	20	1. 個別ケア会議の事例・検討内容説明 2. 講演会 ～ペットと高齢者の包括ケア ペットが関わる社会問題の実情について～ (ペットの訪問介護看護cocoro 青木宏之氏) 3. グループワークと発表 4. 地域医療に携わる医師からひとこと (足立医師・堂垂医師)
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	5	
	市社協	2	薬剤師	3	通所介護		
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連	9	医療相談員	2	地域包括	5	
			理学療法士		市役所	1	
			社会福祉士	1	ペットのCOCORO 2 愛護センター 1 msw 3 NPO 1		
		消防		合計	75人		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	ペットを飼えなくなった時の引き取り先の確保			○いざとなったときのことを事前に話し合っておく。 ○ペットの引き取り手やペット保険などについての情報提供を行う。	ペットの里親探しの周知に向けた工夫について県などの関係機関と検討を行う。
イ	ペット支援のネットワーク構築	飼い犬のことが気になって入院治療できない重病高齢者の事例。	○	○ペットを飼っている高齢者を把握する。 ○いざという時に助け合えるペット仲間づくり。(散歩が難しい飼い主の代わりに散歩と行うなど) ○予防接種や避妊・去勢手術を行っておく。	○ペットボランティア制度の創設。 ○ペットの相談部署・窓口を設置。 ○ペット支援事業所を増やす。 ○ペットの飼育登録制度の創設。 ○予防接種、避妊・去勢手術の費用助成。

9.常盤平地区推進会議（令和元年5月16日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	ペットロスによる孤独に対する支援が必要	飼い犬のことが気になって入院治療できない重病高齢者の事例。	○	ペットロス高齢者の話し相手になる。	○ペットのレンタル制度 ○ペットロボのレンタル制度
エ	ペットに関する問題についての普及啓発が必要			ペットに関する様々な問題（飼い主が買うことが難しくなることや、野良猫への対応）について地域で普及啓発イベントを行う。	ペット販売業者での新たな飼い主に対しての知識の普及
オ	災害時のペット対応			○避難訓練をペット同伴で行う。 ○ペット同伴の避難者について把握し、話し合いをする。 ○ペットの食糧備蓄。	ペット同伴の避難者についての避難所の対応の整備。

10.常盤平団地地区推進会議（平成31年2月1日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
2月 1日 (金) 13:30~ 15:00	町会	4	医師		ケアマネ	5	1 自己紹介 2 団地地域包括支援センター現況報告 3 地域課題における検討について 「高齢者を支援している人たちの課題を考える」 1) Aさんを取り巻く支援をしている人たちを 模造紙に書き込む 2) 支援している人（関係団体・機関等）が 抱えている「高齢化」について話し合う 4 モニタリング報告 5 その他
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師		通所介護		
	民生委員	5	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
			理学療法士		市役所	2	
			警察		司法書士 1人 作業療法士 1人		
			消防				
					合計	22人	

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
高齢者をインフォーマルな面から支援する人たちが高齢化している。	癌末期と知的障害の高齢夫婦が自宅で生活の継続を希望しているが、土日にサービスが入っていない事例。地域の見守りの目が必要だが、インフォーマルで支援している人たちも高齢化している。	○	○自治会事務所に訪れる人が増え始めてきており、自治会の協力者を増やす工夫を行っていく。 ○元々の住民の子どもの世代に地域活動の声かけを行っていく。 ○9.3%いる外国籍の人のコミュニティ作りにURは積極的。 自治会もその輪に協働していく。 ○団地新聞「ときわだいら」や自治会掲示板を活用し、役割を周知していく。	

11.五香松飛台地区推進会議（平成31年2月21日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題	
2月21日 (木) 13:30~ 15:30	町会	9	医師	3	ケアマネ		1.地域ケア推進会議の説明 2.今年度地域ケア個別会議で協議した事例概要を説明 3.グループワーク、発表 4.その他	
	地区社協	2	歯科医師		介護事業者			
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護			
	民生委員	1	看護師		認知症デイ			
	ボランティア			保健師	1	グループホーム		
	高支連	1	医療相談員		地域包括	5		
	五香松飛台皆護ネットワーク	2	理学療法士	1	市役所	2		
	防災ボランティア	1	警察		小学校校長	2		
			消防		基幹相談支援センター	1		
					障害者相談室	1		
				合計	34人			

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域で行っている見守り支援をさらに充実させる。	地域との関わりを拒絶している事例。	○	○見守りパトウォークの実施。 ○徘徊者への対応連携のシステム構築。	他地域で行っているパトロールグループ同士の交流会及び情報交換の機会の設置。
イ	消費者被害の防止を拡大させるための取組が必要。	軽度認知症の方がキャッシュカードの詐欺被害に遭った事例。		○架空請求についての対処方法の周知。 ○地域包括による消費者被害の普及啓発。	
ウ	認知症の早期支援、在宅ケアに関する啓発	認知機能が低下し、セルフネグレクトでゴミ屋敷に住む方の事例。		○地域包括による訪問診療・訪問看護の普及啓発。 ○認知症の早期支援。	「もの忘れ検診」を高年齢者が自然に受診できるような意識づけ。
エ	多分野にまたがる支援の促進。			元気応援クラブの助成を使ってサロンを立ち上げる。	子ども食堂が全地区に設置できるような場所の提供や助成の仕組みづくり。

12.六実六高台地区推進会議（令和元年5月15日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
5月15日 (水) 13:30~ 15:30	町会	1	医師		ケアマネ	3	1、参加委員の自己紹介 2、地域ケア会議について 3、平成30年度 地域包括支援センターの活動報告 4、平成30年度 松戸市地域ケア会議・地域個別ケア会議の報告 5、課題検討：個別ケア会議より ～地域に関心を持つには～ 6、次回以降の地域ケア会議について 地域資源マップ確認のお願い 7、その他 ・認知症サポーター養成講座、介護者のつどい、 認知症予防講演会の案内
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	12	
	市社協		薬剤師		通所介護		
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連	1	医療相談員		地域包括	4	
			理学療法士	1	市役所	1	
			警察		老人会、NPO	2	
			消防		元気応援くらぶ	1	
					合計	30人	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	孤立しそうな方、孤立している方を地域で見つけられるネットワーク体制が充実していない。	ケアマネやヘルパーとしか関わっておらず、地域から孤立していた事例。	○	○自分の事として近所の人や地域に関心を持つ。 ○近所の気づき、自治会、町会、民生委員、オレンジ協力員、高齢者支援相談員に関わってもらう。 ○地域包括、社会資源マップの周知。	高齢者支援をしている機関（民生委員、高齢者支援相談員、地域包括等）が連携できる仕組みを作る。
イ	高齢者、認知症、外からわかりにくい障害の方への手助け、声かけができる地域の意識醸成。	日中独居で、介護について同居している家族からの関心が薄かった事例。			

13.小金地区推進会議（令和元年5月27日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者					議題	
5月27日 (月) 10:00~ 12:00	町会	1	医師		ケアマネ	1) 開会の挨拶 2) 会の趣旨説明 3) 各委員自己紹介 4) 小金地区の人口、高齢化率、介護認定の状況等について 5) 小金地域個別ケア会議の報告について 6) 災害に備える地域の防災力について ①わが街の防災IN小金の報告について ②小金消防署(地震災害に備える) ③松戸市総合医療センター（災害医療体制について） 7) 小金地区にかかわる情報交換・情報提供 8) その他 事務局より 次回の開催について等	
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師		通所介護		
	民生委員	2	看護師	2	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括		2
			理学療法士		市役所		4
			警察	1			
		消防	2				
				合計	16人		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	高次脳機能障害の人が地域で暮らしていけるため、理解を深める。	50代独居で高次脳機能障害がある方が精神的に不安定でケアマネに頻回に連絡があるがコミュニケーションが取りづらい上の病識が乏しく支援が難しい事例。	○	地域においても高次脳機能障害の理解を進めてゆく方法について議論を進める。	
イ	災害発生後支援が来るまでの72時間を地域で対応できる体制を作る必要がある。		○	防災対策についてさらに議論を深めるため、次回の推進会議には、学校関係者、危機管理課にも参加してもらおう。	

13.小金地区推進会議（令和元年5月27日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ ①	若い世代の防災の担い手がいない		○	地域参加のきっかけとして、子育て世代へ向けたイベントを開催する。	若い世代へ向けた、防災やイベント情報の告知。
イ ②	災害時の要支援者への支援の確保		○	隣近所で声を掛け合う関係を作り、自治会でも取り組んでいく。	
イ ③	災害が日中に発生した場合、若い世代は働きに出ており、地域には少ない可能性がある。		○	防災対策について、地域特性を踏まえた議論を行う必要がある。	

14.小金原地区推進会議（平成31年1月18日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
1月18日 (金) 16:30~ 17:45	町会	1	医師	2	ケアマネ	1	1.平成30年度第1回地域包括ケア推進会議のまとめ 2.平成30年度第3回、第4回地域個別ケア会議の検討内容について（報告） 3.小金原地域で大きな災害が起きた場合の体制について各専門職から話してもらおう。グループワークで小さい災害が起こった場合心配されることをKJ法であげてもらう。
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	1	
	市社協		薬剤師		通所介護	1	
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	2	
	高支連	2	医療相談員		地域包括	6	
	オレンジ協力員	2	理学療法士		市役所	2	
	防災部	2	警察	1	社会福祉士 1 作業療法士 1 訪問介護 1		
	支所	1	消防		合計	30人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	高齢者本人のみならず同居家族の支援も必要であり、地域で暮らしづらくなっている人を様々な場面でどう支えていくか。	長い海外生活の後帰国した後寝たきり状態の高齢独居の方の事例。介護する家族が風習の違いからヘルパーと共感できず、良好な関係を築けなかった。	○	○「独居」「認知症」のほかに「地域とのつながりが薄い」という重複課題あり。地域住民による見守りが重要となるため、「見守りあいマップ」の活用を含め、住民、専門職が連携して見守り活動を検討、実施する。 ○言葉や習慣の違いについては、必要に応じて市の通訳制度を利用、図柄を使用した説明など根気よく行い相互理解を深める。	「見守りあいマップ」を市全体で活用する。

14.小金原地区推進会議（平成31年1月18日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	地域に繋がりを持たない高齢者を把握し、必要な支援に繋げていくか。	アルコール依存により適切な判断ができずに経済破綻し、医療も受けずに衰弱している事例。	○	地域とのつながりが薄い人に対して、フォーマルサービスと地域住民による見守りによって在宅生活を支援する。	「見守りあいマップ」を市全体で活用する。
ウ	高齢者本人のみならず同居家族の支援も必要であり、地域で暮らしづらくなっている人を様々な場面でどう支えていくか。	脳梗塞・脳出血で入退院を繰り返す。近所付き合いがなく、他者との交流を好まない。デイサービスで転倒入院後、在宅復帰は困難視されていたが本人の強い意志で在宅復帰した事例。本人の意思に寄り添った支援でADL向上し要介護4から要介護2へ改善。	○	「独居」のほかに「地域とのつながりが薄い」という重複課題あり。地域住民による見守りが重要となるため、「見守りあいマップ」の活用を含め、住民、専門職が連携して見守り活動を検討、実施する。	「見守りあいマップ」を市全体で活用する。
エ	支援が必要な人に対し早期発見、早期介入できるように地域住民同士、見守り、見守られる地域を目指し、暮らしづらくなっている人をどう支えていくか。	集合住宅に独居、近所づきあい、身内無し。1年間入院を繰り返し、自宅内はゴミがあふれ、経済的に破綻していた事例。	○	「独居」のほかに「地域とのつながりが薄い」という重複課題あり。地域住民による見守りが重要となるため、「見守りあいマップ」の活用を含め、住民、専門職が連携して見守り活動を検討、実施する。	

15.小金原地区推進会議（令和元年5月31日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月31日 (金) 16:30~ 18:00	町会		医師	1	ケアマネ	1	1.平成30年度第2回地域包括ケア推進会議のまとめ 2.平成30年度第5回、平成31年度第1回地域個別ケア会議の検討内容について 3.災害時初期対応について公的機関からの話を聞く。グループワーク「事例について災害時初期対応として共助できることを考えてみましょう」
			歯科医師	1	介護事業者		
	市社協		薬剤師		通所介護	1	
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	2	グループホーム		
	高支連	2	医療相談員		地域包括	6	
	オレンジ協力員	2	作業療法士	1	市役所	5	
	防災部	2	警察		在宅介護医療連携センター		
	支所	1	消防	1	1、認知症疾患センター 1 こども食堂 1		
						合計	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	災害発生時、自助でのりきれない世帯が多い。	高齢者のみの世帯で、高齢の本人が認知症かつ医療依存度の高い配偶者を介護し、介護の代替者がいない事例。	○	近所の人達による共助が災害時に発揮できるよう見守り活動や地域活動で日ごろの関係をくっておく。	地域の防災資源の詳細版作成における協働。
イ	日常生活上は問題ないが、突発的な災害発生時支援対象となる世帯を把握できていない。	○知的障害の子が高齢認知症の親を介護している事例。 ○夫婦ともに軽度認知症がある世帯の事例。	○	日常で声かけ、顔の見える関係を作り、家庭状況を知っておく。	
ウ	地域でのつながりが希薄。	奥まった住宅環境で殆ど外出せず、困ったことがあってもSOSを出せない独居高齢者の事例。	○	小さなコミュニティの中で活動を推進し、地域力を高める。	

16.新松戸地区推進会議（令和元年5月16日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月16日 (木) 10:00~ 12:00	町会		医師	1	ケアマネ	3	1、新松戸地域包括支援センター活動報告 2、個別ケア会議（H31年1月・3月開催分）、前回推進会議の振り返り 3、「救急要請について」講演、グループワーク
	地区社協		歯科医師		介護事業者	4	
	市社協	1	薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	1	
	高支連	1	医療相談員	1	地域包括	5	
			理学療法士		市役所	1	
			警察		新松戸中央総合病院 2		
			消防	2			
					合計	27人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	通院の際に介護タクシーを利用するか、救急要請するかの判断が難しく、救急要請してから隊員に判断を仰ぐ人がいる。		○	○救急アプリや#7119活用など、困った時や迷った時の相談先を周知する。 ○実際の事例について検討会を実施する。 ○民間救急や介護タクシーとの連携を図る。 ○ケアマネやサービスに関わっている利用者から話を聞く。 ○普段から医師との情報共有ができるように声がけしていく。	○情報共有シートの周知や改定。 ○救急マニュアルの整備。 ○医師会から各病院医師へ、日頃から救急対応について患者や家族向けに話をしていくよう改めて体制を構築する。

16.新松戸地区推進会議（令和元年5月16日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	救急要請について、すぐに介護タクシーが捕まらない、民間救急は費用がかかるなどの理由から、軽度な症状での利用、タクシー代わりに利用する人がいる。	カフェで動けない状態が続き、自力で帰宅できるかもしれないという気持ちもあったが、救急要請し、自宅まで送迎してもらった事例。	○	○民間救急や介護タクシーとの連携を図る機会を持つ。(グループワーク等を行う) ○介護タクシーと普通のタクシーの相違点や料金について、普及教室を開催し説明する。	緊急性の低い場合に利用できる介護タクシーの普及。
ウ	頻繁に救急要請したり、要請後に搬送拒否するなど、現場で困ることがある。	○気持ち的な問題もあり、体調不良で救急要請。病院につくと何事も無く、そのまま帰宅する事を繰り返す事例。 ○独居で体調不良となり親族が心配して救急要請するも、本人は救急搬送拒否。アウトリーチを利用し、訪問診療に繋がった事例。また、救急搬送を拒み、最初からアウトリーチに繋げる事例もあり。	○	○服薬管理で落ち着く場合があるので、服薬調整、訪問薬剤師等の活用を促す。 ○アウトリーチの活用を継続。 ○住民・ケアマネ向けにアウトリーチについて周知し、包括へ連絡が入る体制を作る。	消防と連携し、頻回に救急要請する高齢者の情報を地域包括等と情報共有する体制の構築。
エ	救急要請時、緊急連絡先や既往歴、薬等の情報把握が難しい。		○	○松戸市救急時情報用紙があることなどの情報共有。 ○ケース会議の時を利用して情報の見直しをする。本人の意思や家族の事を確認しておく。	医師会と連携して、救急搬送時に必要な情報を記載できるシートの見直しと周知を図る。
オ	救急要請時、どこからも入室できないことがある。マンション、戸建て等によって対応が異なる。	マンション独自の取り組みで、ガラスを割って家に入った場合、管理組合で弁償するというシステムがある。安否確認ができないケースで実際に利用された。	○	マンションでは、緊急時の入室、対応方法について取り決めを行う。	

17.馬橋西地区推進会議（令和元年1月25日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
1月25日 (金) 19:00~ 20:30	町会		医師	1	ケアマネ	1	1.（11月30日開催）地域個別ケア会議の振り返り 2.地域課題についての検討
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	2	
	市社協		薬剤師	1	通所介護	1	
	民生委員	3	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム		
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
	オレンジ協力員	1	理学療法士		市役所	1	
			警察		セブンイレブン 1		
			消防				
						合計	

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	認知症高齢者の見守りについて	○認知症の高齢者が現金で支払いができず通帳で買い物しようとする。お金を出すことができず財布からお金をとって欲しいと言われる事例。 ○昼夜構わず来店して同じものを購入するが、家にあったからと返品に来る事例。	○	○認知症サポーター養成講座やまちっこプロジェクトを活用し、認知症について全世代に普及啓発を促す。 ○オレンジ協力員が活動しやすい環境作りと情報の共有、多分野との協力をする。	商店や薬局等高齢者の身近にある企業との連携や、協力体制の構築を図る。

17.馬橋西地区推進会議（令和元年1月25日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	認知症高齢者の地域支援について	<p>財布を家族に渡さず、全財産を持ち外出する認知症高齢者の事例。介護者が疲弊しているが、認知症高齢者やその家族の交流の場や居場所が少ない。</p>	○	<p>○近隣住民からの情報収集、食事会やサロンの開催。ハイリスク・アプローチ事業における戸別訪問。 ○認知症カフェ等の交流の場について、ニーズを把握しそれに応じた企画を作成する。</p>	<p>○居場所づくりとして必要な活動場所の確保。 ○空き家の活用やNPO法人への委託。</p>
ウ	見守りや安否確認について	<p>○電球の交換や湿布を貼ること等、些細な困り事の解決方法が無い。 ○アパートやマンションは住人の入れ替わりが激しいため、住民の把握が出来ない部分があり、問題が潜在化してしまっている。 ○ゴミ屋敷状態の家で喫煙をしていて火事になるなど、近隣とのトラブルが発生している事例。 ○鍵を預けることに抵抗がある場合など、緊急通報装置の設置が進まないことがある。</p>	○	<p>○町会単位での話し合い。 ○食事会やサロンの開催による住民同士の関係づくり。 ○ワンコインボランティアやデイサービス、自費サービスの活用の推進。 ○身体面の問題でゴミ出しが出来ないケースには、近隣住民で支援ができないか。 ○緊急通報装置の普及啓発。利用者から利点を聞き取り情報共有する。 ○相談窓口の周知として高齢者が身近に感じている郵便局や薬局、商店等へ地域包括の案内を設置し、連携支援体制を構築する。</p>	<p>○ゴミ屋敷のごみ撤去についての制度や助成の検討。 ○学生のボランティア活動を推進し、些細な困りごとに対応してもらえるようなボランティア団体を作る働きかけをする。</p>

18.馬橋地区推進会議（平成31年3月7日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
3月 7日 (木) 9:30~ 11:00	町会		医師	1	ケアマネ	2	1.平成31年2月松戸市ケア会議の報告 2.前回報告「ひと目でわかる高齢者のサービスマップ作り」 3.個別ケア会議で抽出された地域の課題についての検討 4.その他連絡事項
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	1	
	市社協		薬剤師	1	通所介護	1	
	民生委員	1	看護師		認知症デイ		
	ボランティア		保健師		グループホーム	1	
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			理学療法士		市役所	1	
			警察		訪問介護	1	
			消防				
					合計	15人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	引きこもりや町会未加入者 (地域から孤立している人たち)との繋がりをつくるためにどうしたらよいか。	○ライフラインが停止し、受診拒否の独居高齢者の事例。 ○アルコール依存症で断酒できない高齢者への生活支援について。	○	○高齢者のみではなく幅広い世代に関わり、孤立している方の情報を聞き出す。 ○地域のイベントやふれあい会食会に参加し顔の見える関係を作る。	地域での孤立予防、交流促進